

## 看護系図書館におけるラーニングコモンズ

日本看護図書館協会 利用教育研究グループ

佐藤晋巨<sup>1)</sup>、岩下愛<sup>2)</sup>、山田奈々<sup>3)</sup>、阿部由美子<sup>4)</sup>、天田めぐみ<sup>5)</sup>、石川道子<sup>6)</sup>、加藤美紀<sup>7)</sup>、志田春海<sup>8)</sup>、勢田玲生<sup>9)</sup>、中尾明子<sup>10)</sup>、西村志保<sup>11)</sup>、根岸准子<sup>12)</sup>、末木万弥子<sup>13)</sup>、松本玲子<sup>14)</sup>、六本木淑恵

1) 聖路加看護大学、2) 国立国際医療研究センター、3) 青森県立保健大学、4) 市原看護専門学校図書室、5) 上武大学附属図書館分館、6) 川崎製鉄看護専門学校、7) 星ヶ丘厚生年金保健看護専門学校図書室、8) 関西看護専門学校図書室、9) 日本赤十字看護大学図書館、10) 日本赤十字豊田看護大学図書館、11) 日本医科大学看護専門学校図書室、12) 日本看護協会図書館、13) 成増高等看護学校図書室、14) 大阪医科大学附属看護専門学校図書室

2009年度～2010年度にかけて、日本看護図書館協会の利用教育研究グループ(以下、研究グループ)でラーニングコモンズについて学び、自館でラーニングコモンズを実践するとしたら、という発表会を行った結果を報告する。

### 小規模図書館でのラーニングコモンズ実現

ラーニングコモンズについての文献を読むと、大規模な空間に豊富な情報機器と人員を設置した事例が多く見られた。予算的にも、物理的にも比較的小規模な看護師養成組織の図書館では実現が難しいのではと考えられた。しかし、母体組織では生涯学習を必要とする医療職を育成しているため、図書館は利用者である学生に情報収集の方法、論文の読み方・使い方といった自ら学び続ける方法を学生に紹介しておきたいという課題がある。自ら学び続ける方法を体得するために、ラーニングコモンズという環境を作り、そこで実施する学習支援サービスは魅力的であった。

### ラーニングコモンズの機能

そこで、ラーニングコモンズの機能に注目した文献講読会を行った。ラーニングコモンズには、図書館がコーディネーター的な役割を果たし、学生同士、教員と学生、他部署、TA等、人的資源を活用する機能がある。そして利用者の学習支援を行う機能があり、まさに卒業後も学び続けるために図書館の使い方からはじまり、情報の入手、資料・機器の使い方、レポートの書き方等を学生自らが学ぶことを支援する機能であった。

### 我が館のラーニングコモンズ案

このようなラーニングコモンズの機能を念頭に置き、自館での課題解決のためにどのようなラーニングコモンズを計画するか、という発表会を研究グループ内で実施した。小規模な組織であることが多いため大きな空間の確保は難しい。しかし、ラーニングコモンズの機能を実現するためには、場所、機器等ハードウェアの提供にこだわらず、既存の人的資源やコミュニケーションの強化、見直しといったソフトウェアと組み合わせることで効果を上げるのではないかと、という方向性が見出された。

また、組織が小規模であることを活かして、図書館だけでなく全学でラーニングコモンズ的な支援を実践し、図書館は自主学習の部分を支援するといった提案もあった。